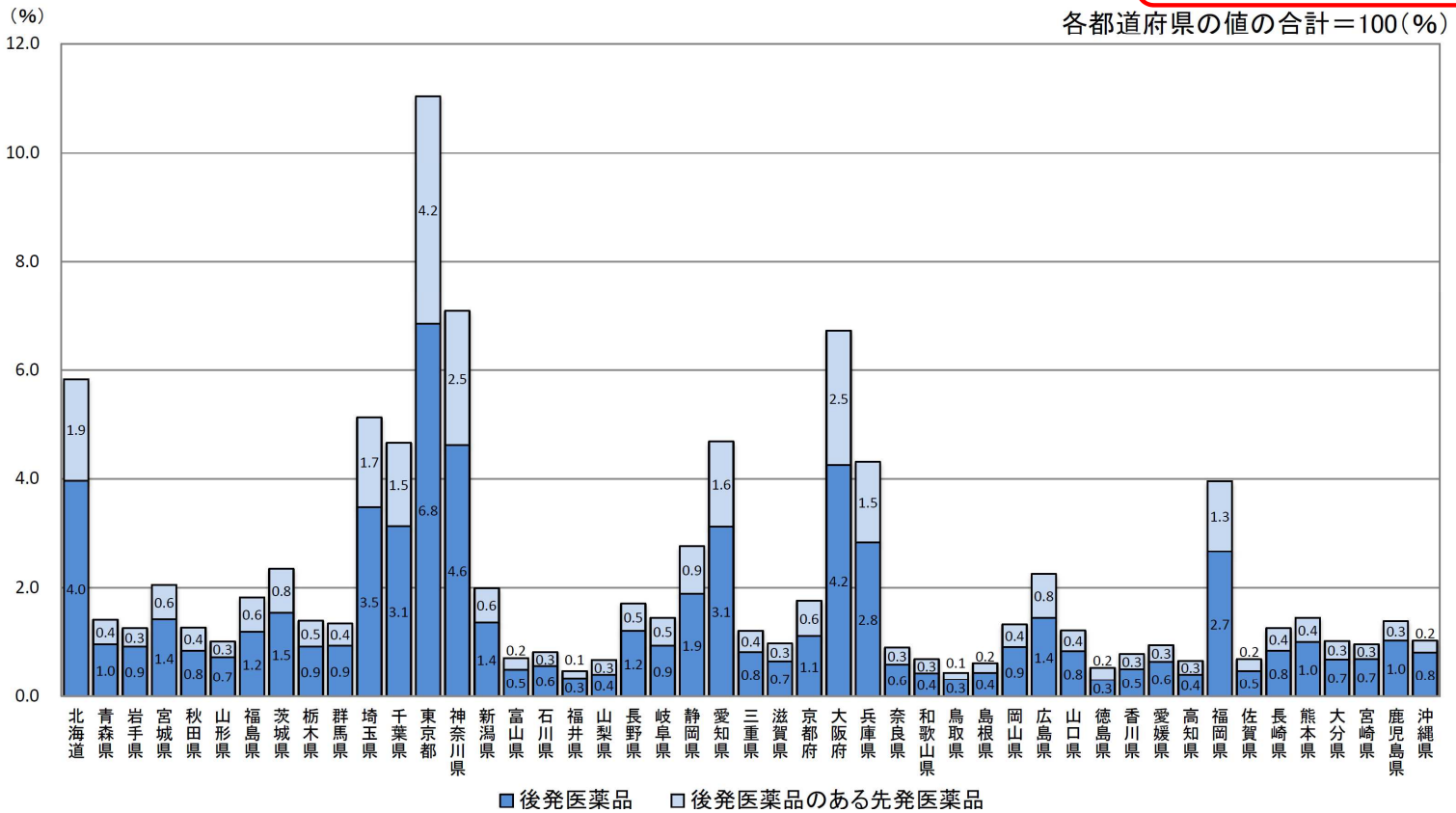


# レセプト分析について

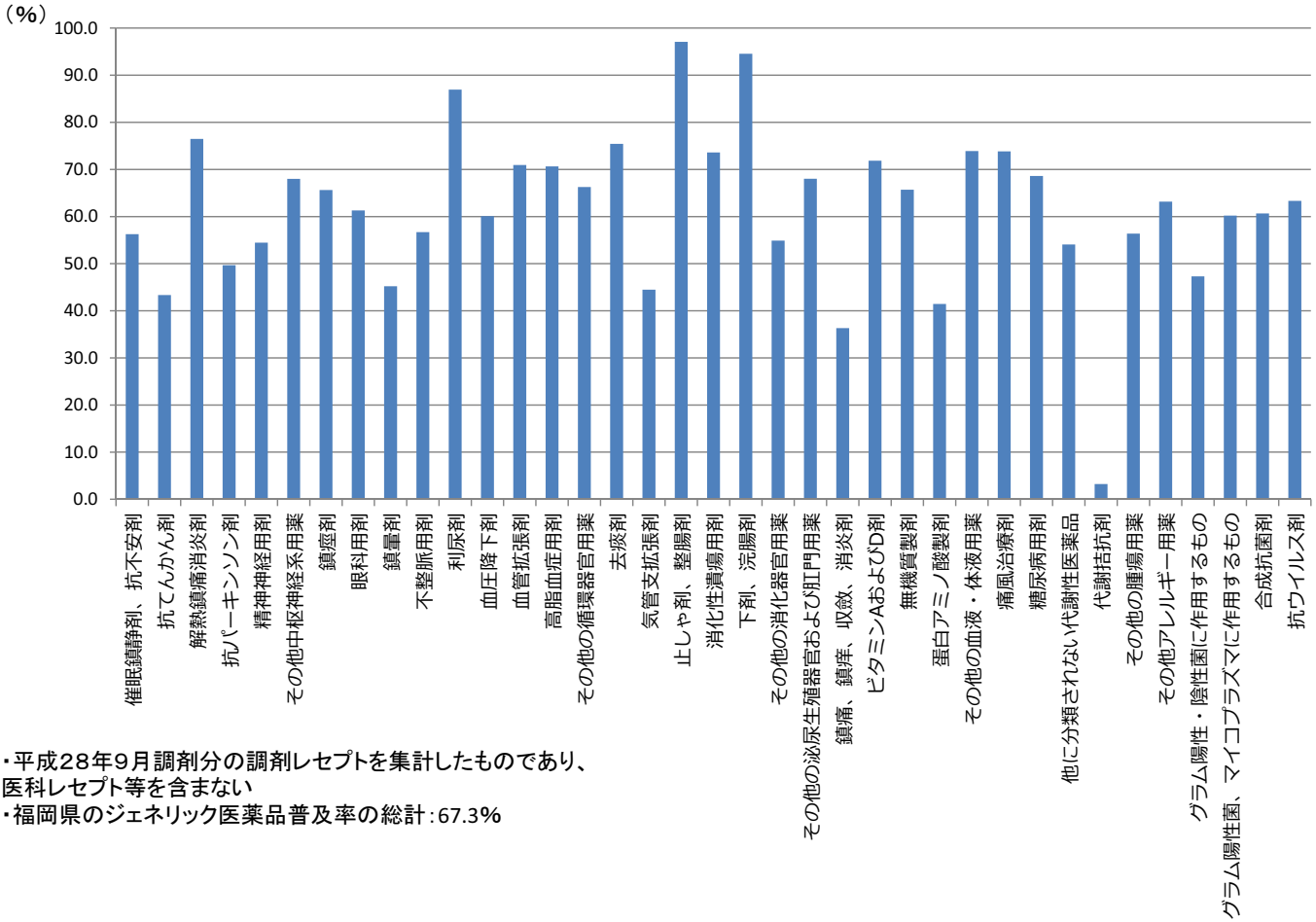
(参考) 薬剤数量の構成比(平成28年9月)

厚生労働省保険局調査課「各都道府県における保険薬局別にみた後発医薬品割合の分布状況」より抜粋



(注1) 全国の全数量(新指標ベース、〔後発医薬品の数量〕+〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕)に対する各都道府県のシェアを示したものであり、全国計を100(%)としたときの各都道府県の数量をそれぞれ棒グラフで表示している。  
 (注2) 後発医薬品割合(新指標)は〔後発医薬品の数量〕÷〔後発医薬品の数量〕+〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕で算出される。  
 (注3) 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

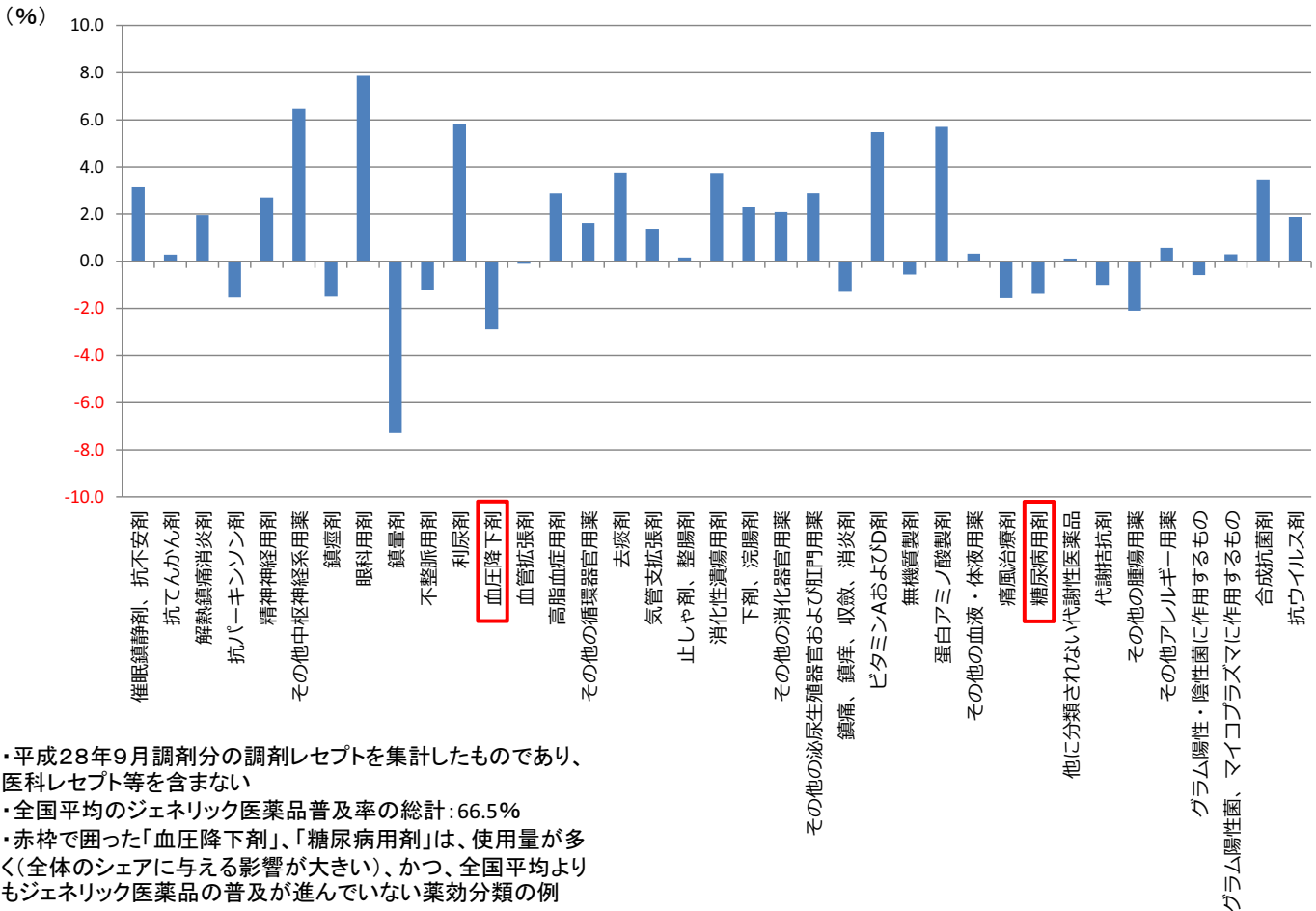
## 福岡県におけるジェネリック医薬品普及率(調剤レセプト)



・平成28年9月調剤分の調剤レセプトを集計したものであり、  
 医科レセプト等を含まない

・福岡県のジェネリック医薬品普及率の総計:67.3%

## 福岡県と全国平均との比較



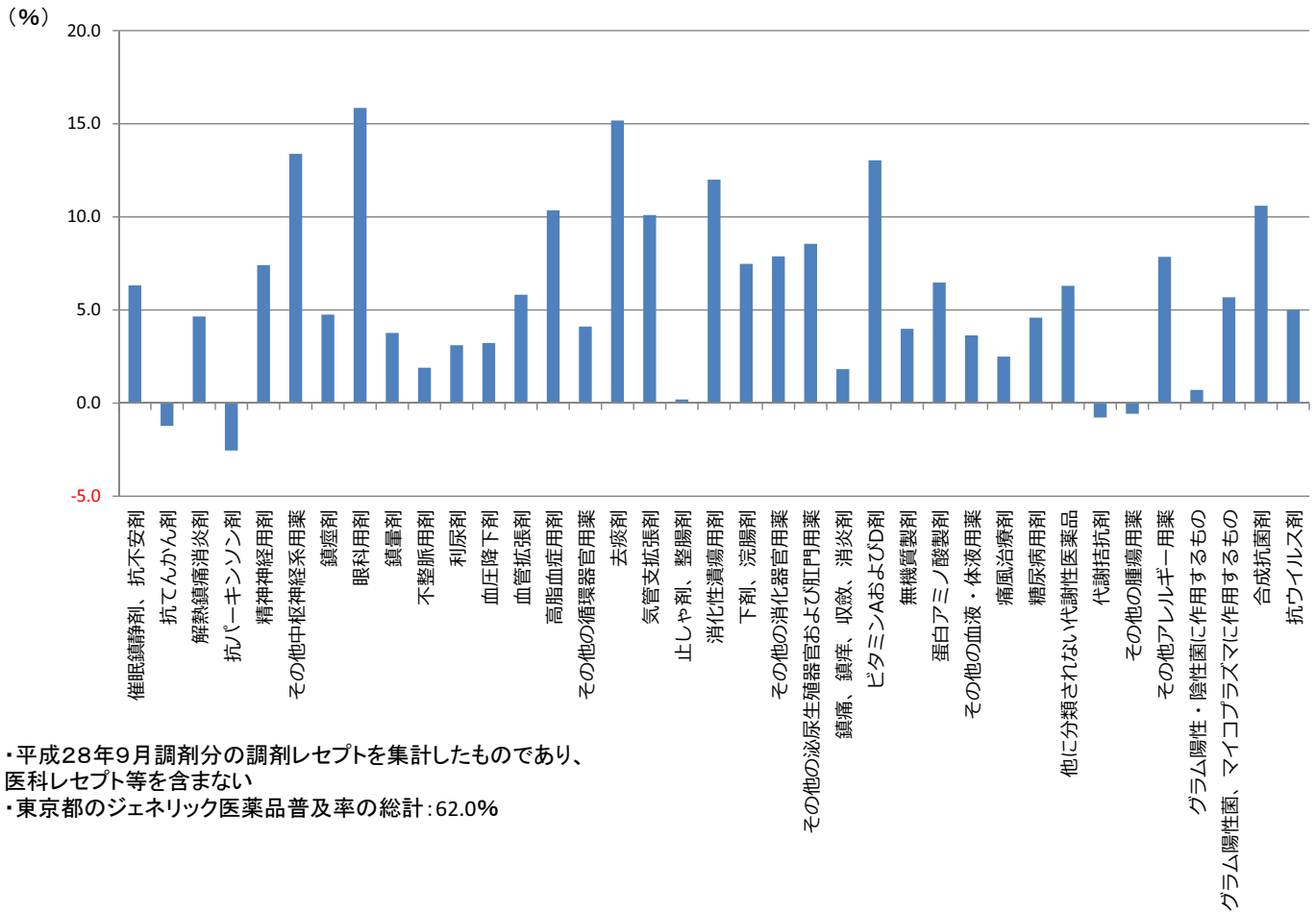
・平成28年9月調剤分の調剤レセプトを集計したものであり、  
 医科レセプト等を含まない

・全国平均のジェネリック医薬品普及率の総計:66.5%

・赤枠で囲った「血圧降下剤」、「糖尿病用剤」は、使用量が多く(全体のシェアに与える影響が大きい)、かつ、全国平均よりもジェネリック医薬品の普及が進んでいない薬効分類の例

# 福岡県と東京都(使用量トップ)との比較

厚生労働省保険局調査課「薬効分類別にみた調剤医療費の動向」をもとに業務課が作成

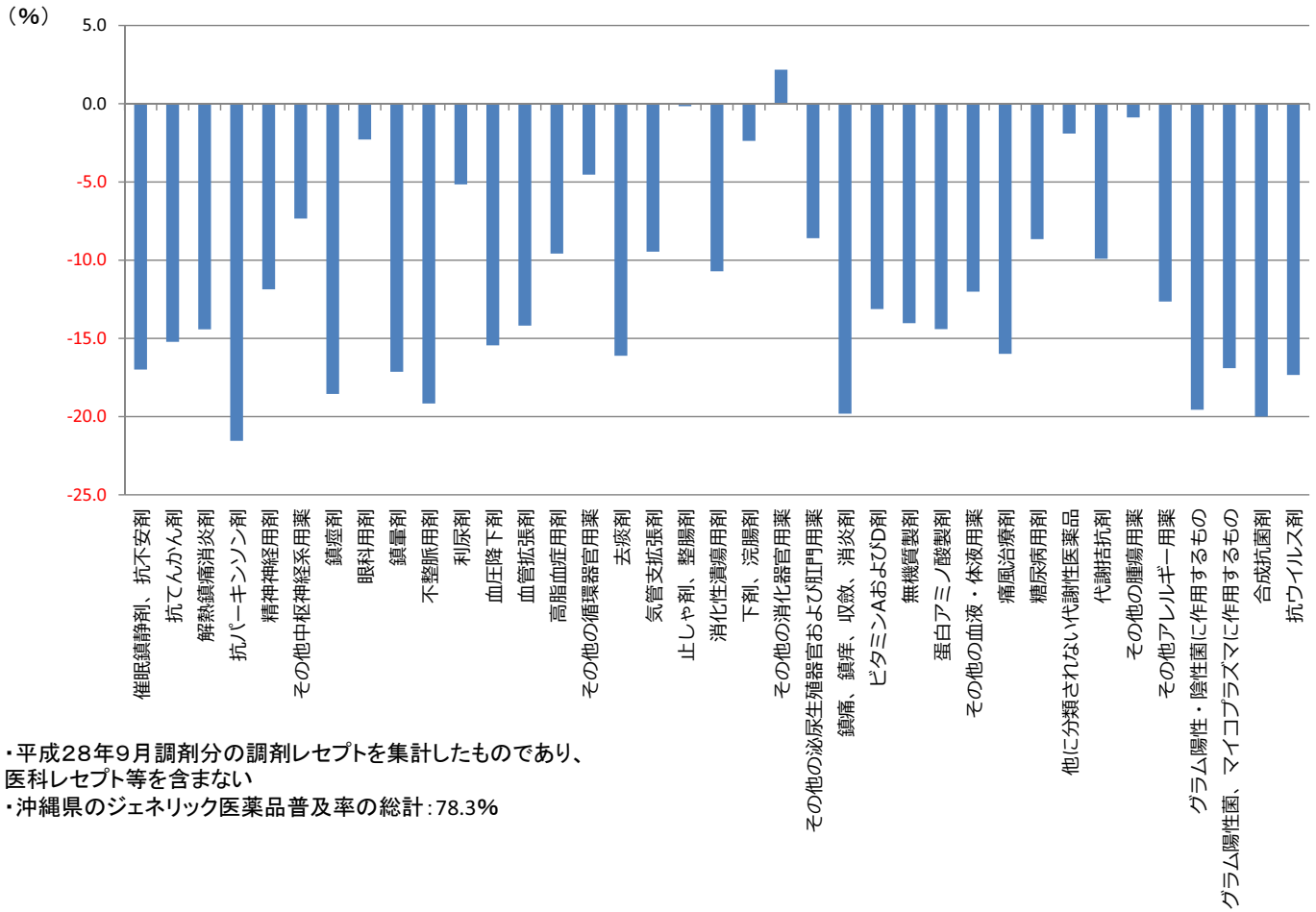


・平成28年9月調剤分の調剤レセプトを集計したものであり、  
 内科レセプト等を含まない

・東京都のジェネリック医薬品普及率の総計:62.0%

# 福岡県と沖縄県(普及率トップ)との比較

厚生労働省保険局調査課「薬効分類別にみた調剤医療費の動向」をもとに業務課が作成



・平成28年9月調剤分の調剤レセプトを集計したものであり、  
 内科レセプト等を含まない

・沖縄県のジェネリック医薬品普及率の総計:78.3%